

令和5年9月7日

石巻市議会議長 安倍 太郎 殿

地域交通対策特別委員会
委員長 阿部 久一

視察報告書
視察の概要は下記のとおりです。

記

- 1 参加委員 委員長 阿部 久一
副委員長 宇都宮 弘和
委員 勝又 和宣、早川 俊弘、
阿部 和芳、鈴木 良広、
阿部 正敏
- 2 視察日時 令和5年7月12日から
令和5年7月14日まで 3日間
- 3 視察先及び視察内容
(1) 岡山県井原市
・「予約型乗合タクシー『あいあいカー』への配車システム」について
(2) 岡山県岡山市（両備ホールディングス株式会社）
・「宇宙一面白い公共交通を目指すプロジェクト等」について
- 4 視察目的 別頁のとおり
- 5 視察概要 別頁のとおり
- 6 所 感 別頁のとおり
- 7 添付書類 別頁のとおり
- 8 経 費 8人 546,660円（随行職員の旅費を含む）

地域交通対策特別委員会 行政視察

視察日時	令和5年7月13日(木) 午前9時30分～11時00分
視察先	岡山県井原市
視察内容	予約型乗合タクシー『あいあいカー』への配車システムについて

○視察目的・概要

井原市は、県西南部に位置し、西は広島県に接している。高梁川支流の小田川が、地域の南部を西から東へ貫流し、その流域の平野部に市街地が形成されている。

また、北部は、標高 200～400mの丘陵地帯で吉備高原へと続いている。地域面積は、243.54 km²で、地形的には井原市街地を除いては、ほとんどが山々に囲まれた農山村である。全体的に温かな気候に恵まれ、年間平均気温は約 13～15℃、年間降水量は 1200 mm前後となっている。

平成 17 年 3 月 1 日、生活・経済・交通圏などで密接な結びつきのあった、井原市、後月郡芳井町及び小田郡美星町の 1 市 2 町が合併し、現在の「井原市」が誕生した。

井原市では、自宅から概ね徒歩圏内で公共交通を利用できる区域を 100%に拡大する目標を掲げ、予約型乗合タクシー「あいあいカー」の充実を図ってきており、既存の予約型乗合タクシーに電腦交通配車システムを導入し、より効率よく配車することで運行便数を増やしたほか、当日の予約も受け付けることで利用者の利便性を向上させている。

このことから、本市の公共交通における乗合タクシー等の事業の参考とする。

○取組の概要

■公共交通の見直しスケジュール

- ・令和 2 年度の地域公共交通計画を策定し、令和 3 年度から令和 7 年度までの目標設定等を行った。
- ・令和 3 年度に芳井・美星地区の見直し実施した。
- ・運行内容や運行計画の具体化については、公共交通会議で協議を行い、また地域での意見交換会を実施して市民の意見を可能な限り羽根井し、公共交通会議での見直し案の承認後には地域での説明会（芳井・美星地区併せて 39 回）を実施した。
- ・バス路線の廃止・縮小は、公共交通において大きな見直しであることから、説明会は自治会単位で、地域の小さな単位ごとに実施し周知を図った。
- ・公共交通会議での合意形成、地域での説明会等を経て、令和 4 年度から、路線バスや循環バスの一部路線や区間の廃止・縮小を行い、新たな交通体系である、予約型乗合タクシー「あいあいカー」の試行運行を開始し、同年 10 月から本格運行を実施している。

■公共交通見直しの方向性

- ・路線バスは、市の骨格を形成する交通網として持続可能で効率的な輸送手段とする。
- ・予約型乗合タクシーは、少子高齢化や地域特性に対応した利便性の高い移動手段とする。
- ・利用の少ない区間や時間帯については、路線バスや井原あいあいバス（循環バス）から、利用者にとってより利便性の高い予約型タクシーへの転換を図った。

■「あいあいカー」運行概要

- ・愛称は、公募で決定し、「相乗り、乗り合い、知り合いに会う、私も気軽に利用できる、市民に愛させるタクシー」という思いが込められている。
- ・あいあいカーは、芳井・美星地区全域で利用でき、また、それぞれの地区を3つのエリアに分けて、自宅⇄地区の中心部、自宅⇄市の中心部、自宅⇄エリア内の乗降場所（公共施設等）の3つの移動に対応している。
- ・便数は、芳井・美星地区それぞれ1日最大9往復している。
- ・運賃は、エリア内や地区中心部までは片道300円、市中心部までは、芳井地区は片道600円、美星地区は片道800円としている。
- ・車両については、タクシー事業者が所有する車両で、予約人数に応じて小型または大型（ジャンボタクシー）で運行している。
- ・料金設定については、路線バスの料金を参考設定し、回数券や障害者割引も実施している。
- ・予約受付センターを設置し、電話とスマートフォン、パソコンからも予約できる。

○所感

予約型乗合タクシーは、移動を必要とする住民のニーズに対応しやすく、さらには、乗り合いによる住民同士のコミュニケーション向上にもつながっている点に関心が持てる。

メリットとして、空バスがなくなったこと、また、市民からは外出の頻度が増えた、移動に対する将来の不安感が減ったといった住民からの意見があり、タクシー事業者からは、比較的閉鎖な時間帯（14時～16時頃）にあいあいカーの運行があるため、収益が上がっている成果が見られていることに魅力を感じた。

デメリットとして、事前予約の抵抗感や、運行内容、予約方法が分かりにくい、始発便をもっと早くしてほしいなどの意見もある。乗合率は1日9便の往復でダイヤ設定していることもあり、令和4年度の実績は、1便あたり1.2人と乗り合いでの利用は低い状況となっている。

乗り合い利用向上対策への取り組みが急務と感じた。

○政策・提言

本市において、井原市との面積の相違上、同じスタイルでの導入は難しいかもしれないが、井原市の既存公共交通の課題をしっかりと洗い出し、住民ニーズについての把握を行っていることは、学ぶべきことだと感じた。

地域交通対策特別委員会として、地域の利用者や交通事業者と共に既存の公共交通の課題について考え、利用者の属性、運行日時、運行体系、使用する車両を十分に検討しながら、利用者とサービス提供者が共に持続可能な形を考えて取り組んでいくことを提言したい。



視察日時	令和5年7月13(木) 午後2時00分～4時00分
視 察 先	両備ホールディングス株式会社(岡山県岡山市)
視察内容	「宇宙一面白い公共交通を目指すプロジェクト等」について

○視察概要

両備ホールディングス株式会社は岡山県岡山市に本社を置く両備グループ内の中核事業会社として、ヒト・モノ・カネなどの経営資源も一元管理(ホールド)する独特の経営形態を有している企業である。

100有余年の両備グループの歴史の中で脈々と受け継がれてきた創業者の思いで、真心からの思いやりを意味する「忠恕(ちゅうじょ)」を「経営理念」に掲げている。

そしてその忠恕を社会、お客様、社員への3方向に展開したもの、つまり、社会への思いやりとして「社会正義」、お客様への思いやりとして「お客様第一」、社員への思いやりとして「社員の幸せ」、を経営方針としている。

両備グループのバスユニットは、2022年、ここがバス事業存続の正念場と捉え、両備グループバスユニットの総力を挙げて、コロナ禍で利用者が離れてしまい赤字続きの公共交通事業の再起を懸けた挑戦として、『公共交通ご利用促進プロジェクト「宇宙一面白い公共交通を目指すプロジェクト」』を推進。

プロジェクト第1弾として、2022年1月13日(木)～25日(火)の間、毎日一日1往復限定で運行を実施した「プラネタリウムバス」をはじめ、両備グループバスユニットは、路線バスの利用向上に向け、両備グループバスユニット初の試みとして1年にわたる長期利用促進キャンペーンを実施した。

○取組の概要

■企画の背景

- (1) 岡山市においてバスの公共交通分担率は2%と著しく低い現状
- (2) コロナ禍による公共交通(バス・電車)利用離れの加速と路線廃止の現実化によってコロナ禍で一気に30%減少
- (3) 一方で、公共交通(バス・電車)の危機的状況が、その公共性の高さゆえに市民の皆様に伝わっていない現状
- (4) 乗合バス事業者として、収支構造の見直しの改革を行いつつ、利用促進の抜本的なアプローチが必要である。

→宇宙一面白い公共交通を目指すプロジェクト

■プロジェクトテーマ:「瀬戸(×内)ぎわ 公共交通 今、正念場(バ)ッス！」

生き残れるか瀬戸際、正念場である公共交通を救うため、日本一を超え、「宇宙一」面白い公共交通を目指し、楽しそう、乗ってみたい、と思ってもらえる企画を実施する。

2023年度には、事業のうち、2022年1月に始めた「幸運のプラネタリウムバス」などのユニークな路線バスの企画を毎月実施し、路線バスを運営する会社として強烈なインパクトを与えていくこととし、年度で3回行う予定としている。具体的には、バスの中を涼しい雰囲気にする「涼備バス」を7月に企画するなどユニークなバスを運営するとしている。

両備グループは、通常バスの場合と企画バスの場合の対比 146.1%、平均 111.3%であり 2022 年度の路線バスの利用者は 2021 年度に比べて約 10%増えたというプロジェクトチームの効果実績を上げている。

また、2023 年 1 月の企画「福、来バス」において、バスガイドによる路線沿線の利用促進を図るための「バス乗って隊」を結成し、路線沿線の法人や団体をまわって「公共交通の日」を作り利用促進を目指すとのこと。

最終的なプロジェクトの成果として、両備グループ 3.8 億円くらいの広告効果があったとしている。

○所感・提言

両備グループのバスユニットが、2022 年、ここがバス事業存続の正念場と捉え、コロナ渦で利用者が離れてしまい赤字続きの公共交通事業の再起を懸けた挑戦として、「公共交通ご利用促進プロジェクト『宇宙面白い公共交通を目指すプロジェクト』」を推進したということで、遊び心をもちながら何事も発想の転換が大事だと感じた。

岡山県岡山市は、県庁所在地で人口 716,436 人（R5.5.1 現在）であり、石巻市とは人口規模等比較にはならないが、行政の抱えている問題を岡山市の金銭的な助成を考えずに企業として捉え、楽しそう、乗ってみたいと思ってもらえるよう、プロジェクトラッピングバス政策や、話題喚起に向けた CM、WEB サイト、SNS での情報発信、毎月のバス利用促進企画のリリースを行い、取組を深め、さらに奇跡を起こしながら公共交通の利用促進、いろんな目的達成のためにプロジェクトを進めたいという考え方は、素晴らしく大会社である両備グループならではの会社組織の在り方など参考になった。

本市においても、公共交通機関である路線バス等利用促進に考え方を同調し進めていければと思う。



お問い合わせ

石巻市議会事務局 議事調査係

〒986-8501 宮城県石巻市穀町14番1号

Tel: 0225-95-5080 (議会直通)

Fax: 0225-96-2274

Mail: assesc@city.ishinomaki.lg.jp